



違いを楽しもう！ 多様性あふれる香港から



香港日本人学校香港校 宮下恵理子



4年GC (グローバルクラス) の「離島探検」
香港に残る漁民文化を体験したり、現地の人に英語でインタビューをしたりします。



「スケッチトリップ」
香港の街に出て、香港の街並みをスケッチします。

活動に重きを置き、毎年現地校との交流を行ったり、香港ならではの環境を活用しての学習 (2年・校内で働く香港人へインタビュー、3年・二階建てトラムで地域巡り、4年・ビクトリア湾でのスケッチなど) を行ったりしています。

私がGCの担任として、そして香港で暮らして学んだことの一つは、「多様性」です。香港には様々な人種の人々が住んでいて、クラスの子どもたちを見ても、親が外国籍だったり、世界各地を転々としていたり、二つの国籍をもっていたりと、本当に色々なバックグラウンドをもっています。日本語が話せても、見た目日本人とは全く異なる子もいます。そんな環境にいる子どもたちは、自然とお互いの違いを受け入れ、尊重し合って生活をしています。香港の子どもたちが教えてくれた、多様性を認める大切さや多様性がある面白さ、この価値観は私の大きな財産になったと感じています。

「香港」と聞くと、何をイメージしますか？ 夜景、ビル群、せり出した看板、ネオンサイン・・・どれも大都市のイメージです。しかし、実は、香港の大部分を占めているのは山地です。確かに毎日高いビルを見上げて暮らしていますが、自宅から30分も歩けば、森の中に入り込み、よく整備されたトレイルコースを歩くことができます。休日には山に登ったり、船に乗って離島に行ったり・・・私も実際に住むまでは、香港にこんなに自然があるとは知らず、驚きました。

香港には、日本人学校が二つあります。私が勤務する「香港校」は、政治経済の中心地である香港島の中央に位置しています。繁華街からバスで20分上った山の中腹にあるため、窓や屋上から香港のビル群を望むことができます。人口密度が非常に高い香港、学校の敷地も狭く、校舎は地下2階地上5階の、縦に長い形をしています。ここに、およそ小学部の児童300人、中学部の生徒200人が通っています。

香港校小学部の特色は、グローバルな子どもを育てようと、英語教育に力を入れていることです。一クラス十数人の少人数レベル分け、ネイティブ教員による英語の授業が、一年生から毎日あります。更に、「グローバルクラス (GC)」を3年前に創設しました。GCは、4・5・6年に一クラスずつあり、このクラスでは、算数や理科を英語で学習する他、「グローバルスタディーズ」という独自の教科を通して、世界規模の問題について探求活動を行っています。また、どの学年も、現地理解教育や体験



「ハロウィン」
子どもも教員も全員が仮装。そのまま授業を行います。



「現地校との交流会」
ゲームなど通して、お互いの文化を伝え合います。この年は、「日本の夏祭り」がテーマ。